

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	池崎 千晴	学校名	筑前町立三輪小学校
実施学年	小6	教科	外国語
単元名	Lesson5 Dream World Tour		

《学びを深めたいポイント》

本単元では、「ALTに、夢のハネムーンツアーとして要望に合ったツアープランを提案しよう。」というゴールに向けて、児童が既習事項の表現を使いながら、その場に応じて質問したり、質問に答えたりしながら、やり取りをする力を育成していきたいと考えた。教科書では、本単元は「話すこと(発表)」を中心とした単元であるが、児童の実態から「話すこと(やりとり)」にも力を入れて指導していき、最終活動であるスピーチに繋げることを目指した。

そのために、帯活動としてsmall talkの時間を設定し、既習事項を生かしてやり取りを繰り返す中で、自分の考えや気持ちを伝えられるように指導してきた。また、相手とのやりとりの際、その場の状況や会話の内容によって、同調したり、繰り返したり、あいづちを打ったりしながら聞くことも指導した。さらに、児童が自分の気持ちや考えを伝えることができるように、+1文や質問する時の表現など、児童のやりとりに便利な表現を、いつでもICTを使って確認できるようにしたり、small talk後のフィードバック時に提案したりすることで、その場で質問したり、答えたりする力も同時に高めていけるよう進めた。

単元後半では、教師が提示する2つのモデルスピーチを比較して、より興味を持ってもらえるスピーチにするためには自分のスピーチをどう改善したらいいかを考え、自身の課題解決のために、手段・方法・形態を選んでスピーチ練習をする「チャレンジタイム」に取り組みさせた。その際、相手に行きたいと思ってもらうためには、分かりやすく、表現を工夫しながら伝えることが大切であることを考えさせた。普段から指導しているコミュニケーションポイント(eye contact/clear voice/gesture/smile/greeting)や、質問されそうなことへの回答準備、聞き手を引き付ける問いかけ、英語らしい発音など、自分の課題解決に必要な教材・ヒントを単元初めに配布しているポータルサイト(発表ノートで作成)から選択して、活用するよう指導した。

《SKYMENU 活用のポイント》

本時では、児童は「ALTが行きたくなるようなツアー提案をすること」を目標に、自身のスピーチに足りないものを考え、目標を立て、課題解決のために手段・方法・形態を選んでスピーチ練習をする、「チャレンジタイム」に取り組みさせた。その際、児童は単元冒頭に配布されている「ポータルサイト(発表ノートで作成)」から、いろんなヒントや補助教材、ルーブリックなど、自分に必要なもの・ツールを選んで20分間の練習に取り組んだ。手立てとして、自分で選択するのが難しい児童のために選択肢を提示したところ、①発音の練習②原稿を覚える練習③ジェスチャーをつける練習④効果的な問いかけを追加するの4つの傾向に分かれた。

本時の最後に、セルフチェックとして、スピーチをしている自分を動画で撮影させ、前時に撮影した動画と比較することで、チャレンジタイムの成果を感じることができたようであった。その2つの動画を貼った発表ノートを提出させることで、私も児童の頑張りを評価することができた。セルフチェックの際に、ルーブリックで自己評価をさせると、より客観的に自分の学習を振り返ることができたように思う。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント																					
導入	<p>1. 挨拶をする。 挨拶・曜日/日付/天気チェック・small talk</p> <p>2. 前時までの復習をする。 (1) チャンツ (2) 前時の振り返りの共有</p> <p>3. 2つのスピーチ動画を比較し、よりよいスピーチとはどんなものか考える。 ・コミュニケーションポイント(eye contact/clear voice/gesture/smile/greeting)を意識できている。 ・発音が英語らしい。 ・効果的な問いかけをしている。</p> <p>4. 学習課題を確認する。</p>	<p>2つのモデルスピーチを見て、どちらが行きたくなるツアー提案か、良いポイントはどこか考えさせる。</p> <p>Which is better?</p> <p>A B</p> 	<p>動画を全体で視聴するのではなく、個人に配布することで、児童が納得するまで繰り返し見たり、後半のチャレンジタイムの練習中にお手本として、見返したりすることができる。</p>																					
<p>めあて ALTに行きたいと思ってもらえるように、自分の課題を考えて、スピーチをよりよいものにしよう。</p>																								
展開	<p>5. 本時の自分の目標を立てる。</p> <p>(1) 前時の最後に撮った自分のスピーチ動画を見直したり、グループの友だちと話したりして、自分の課題を考える。</p> <p>(2) 単元目標を達成するための本時の個人目標を立て、達成するための本時のチャレンジタイムの内容を決める。</p> <p>6. 「チャレンジタイム」 目標を達成するために、自分で選んだ手段・方法・形態で練習をする。</p>	<p>発表ノートで配布された選択肢から、練習内容を選ぶことができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>誰と</th> <th>何をを使って</th> <th>どんな練習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひとりで</td> <td>モデル動画を見て</td> <td>「英語らしい」発音にする</td> </tr> <tr> <td>ペアで</td> <td>canva単語リストを使って</td> <td>ジェスチャーを加える</td> </tr> <tr> <td>グループで</td> <td>APUのQ&Aシートで</td> <td>問いかけを加える</td> </tr> <tr> <td>先生と</td> <td>アドバイスをもらって</td> <td>原こうを覚える</td> </tr> <tr> <td></td> <td>カメラで何度も撮影して</td> <td>笑顔や表情を意識する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>これまでの発表ノートを見て</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	誰と	何をを使って	どんな練習	ひとりで	モデル動画を見て	「英語らしい」発音にする	ペアで	canva単語リストを使って	ジェスチャーを加える	グループで	APUのQ&Aシートで	問いかけを加える	先生と	アドバイスをもらって	原こうを覚える		カメラで何度も撮影して	笑顔や表情を意識する		これまでの発表ノートを見て		<p>発表ノートで提示資料を作成することで、電子黒板で表示することもできるし、児童に配布することもできるので、視力の悪い児童からは助かるとの声があがっている。</p>
誰と	何をを使って	どんな練習																						
ひとりで	モデル動画を見て	「英語らしい」発音にする																						
ペアで	canva単語リストを使って	ジェスチャーを加える																						
グループで	APUのQ&Aシートで	問いかけを加える																						
先生と	アドバイスをもらって	原こうを覚える																						
	カメラで何度も撮影して	笑顔や表情を意識する																						
	これまでの発表ノートを見て																							

	<p>(選択肢) 【誰と】ひとりで/ペアで/グループで/先生と 【何を使って】canva 作成シート/モデル動画/カメラ/Q&A シート 【どんな練習】発音の練習/コミュニケーションポイントの練習/効果的な問いかけを追加する ※ある程度練習できた児童は ALT の前でスピーチチャレンジをする。</p> <p>7. 「チェックタイム」 自分のスピーチを動画にとって確認し、発表ノートに before/after の動画を撮って、提出する。</p>	<p>児童は、発表ノートの外部リンク機能を使ってまとめてあるポータルサイトから、自分に必要な教材やツール・ヒントを選んで練習を進める。</p>  <p>Unit Goal: ダニエル先生の要望を叶えた夢のハネムーンツアーを提案しよう。</p> <p>練習前後の動画を発表ノートで提出させる。</p> <p>動画でセルフチェック</p> 	<p>自己調整学習に必要なものはすべてこの発表ノートに詰まっているので、本当に支援が必要な低層の児童を中心に支援することができる。</p> <p>児童は自分のスピーチの成長を客観的に見ることができ、教師の形成的評価にも活用できる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>まとめ 英語らしい発音や、コミュニケーションポイント、効果的な問いかけを意識すると行きたいと思ってもらえるような、よりよいスピーチにすることができる。</p> <p>8. 振り返りシートを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあての達成度/その理由 ・今日のチャレンジタイムを終えて、スピーチがどう改善されたか。 ・次回のリハーサルでどう活かしたいか。 		

《実践を振り返って》

この単元は、自身の年間研究テーマとして、「主体的に自己選択・自己決定をしながら学習を進められる子ども」を意識して実践した単元であった。これまで私の授業スタイルは、同じ課題を児童に与え、同じスピード・同じ方法で取り組むというもので、今回の授業は私にとって少しチャレンジしたものになった。特に今回手ごたえを感じたのは、発表ノートで作成したポータルサイトである。単元後半のスピーチ作成～練習の時間に、児童が自分で学びを調整しながら学習を進めるために、必要な教材やツールを外部リンクでつないで配布している。そのつないでいるものの1つに単元計画があるため、「早く終わったんですけど次なにすればいいですか?」という児童が減り、授業内に終わらなかった課題を家庭学習で終わらせてきたり、休んでいた授業を単元計画や配布資料を元に、友達に尋ねて理解しようとする児童が見られたり、見通しを持って学習を進められる児童が増えたように感じた。

また、小学校外国語では「読む」「書く」技能は慣れ親しむ程度のため、やはり「聞く」「話す」での評価が大きくなる。スピーチ動画を提出させることで、形成的評価を日常的に行えることは非常に助かっている。

現在、進めている単元では、動画を提出させる際に、配布しているループリックで自己評価も同時にさせているため、より児童が意欲的にスピーチややりとりの練習に取り組める様子が見られている。

